

令和6年度学校保健委員会報告



1月15日(水)に学校保健委員会を本校保護者、市内特別支援学級保護者と教員対象に行いました。講師に京都教育大学の門下祐子先生、助産師櫻井裕子先生をお招きしました。

前半は「からだの権利から考える包括的性教育」として、本校の実践紹介の後、講師の門下先生に「キャリア教育と包括的性教育」櫻井先生に「からだの権利とバウンダリー」についてお話をいただきました。

後半は、参加者が4グループに分かれてグループトークを行いました。悩みや、現状について、それぞれの立場からお話をしていただき、盛り上がりましたが、時間が足りず参加された方には大変申し訳ありませんでした。また、各グループの内容を共有できなかったのが、裏面に一部紹介しています。ご覧ください。

キャリア教育というと、就労に関することと考えがちですが、門下先生からは、ライフキャリアの中で、結婚、妊娠、出産、子育て、更年期老年期における心身の変化、パートナーとの関係性、など、どれも性にかかわることです。障害がある人のライフキャリアは？性の多様性は？すべての人に自分で選択して決定する権利があります。そのために包括的性教育を学んでいく必要があると教えていただきました。

性加害者への再犯防止プログラムに携わる櫻井先生からは、性加害を行う人は、性欲が強いから行うのではなく、自分より弱い人に暴力をふるい、その暴力の種類が性であったというお話がありました。加害者は元被害者(性だけではなく虐待等を含む)で適切なケアを受けられず、認知のゆがみから弱い人に加害しているというお話もありました。(櫻井先生の著書「性的同意は世界を救う」の中で「小児期逆境体験」について詳しく書かれています)



参加された方の感想

個人が特定されないよう、内容を変えずに表記を変えているところがあります。

- ・大切に扱われることで、自分のからだの大切さがわかるという櫻井先生の言葉が素敵だなと思いました。
- ・グループでお話する時間がもっと欲しかった。お風呂や一緒に寝ていいのかなど、生活の中でも身近な疑問なども、先生や保護者の方と話してみたかった。
- ・性やキャリアについてなど、普段あまり考えないことにも触れる良い機会になりました。
- ・いつまで一緒にお風呂に入ってよいのかなど、障害の重さもみな異なり、正解はないのかもしれないが、先生のご意見や保護者の経験などをお聞きして、自分なりの答えや方針の参考になるお話をもっとたくさんしたい。
- ・「性」って自分が思っていたより広義なのだなと思ったので、もう少し聞いてみたい。
- ・子供が他人に興味をあまり持たない子なので、「性」に触れずに成長するかもと思いましたが、数年前から自慰の一手手前のようなことが始まりました。電車等外では「しないよ」と伝えますが、悪いことではないし、自然なことでもあると思うのでどうしたらいいかなと思っています。
- ・性的欲求から性加害者になるのではないとは新事実でした。子どもを大切に扱うことを常に意識したいです。
- ・性欲が収まらないと加害をしてしまうのではと心配していましたが、そんなことはない聞き安心しました。被害にあった際や悩みなど、日ごろからじっくり話を聴けるように心がけたいと思います。
- ・繰り返し積み上げて教えていくことの大切さ、よいことを含めて指導すること、改めて自分が大切にされていると実感できるような関わりや授業をしていきたい。
- ・いろいろな事例や悩みを聴くことができ、考え方が広がった気がします。
- ・校種関係なくいろいろな話を聴く機会ができてよかった。
- ・支援学級にも声をかけていただけてありがたかった。



グループトークの内容紹介 4 グループに分けて行いました

○小6 男子児童の自慰行為について家庭で「汚い、いやらしい」と叱られて登校してくることが多く、朝から不機嫌。学校でも頻繁にズボンに手を入れ性器を触っている。担任は見つけるとダメだ！注意している。注意すると怒り、上履きを投げつけてくる。(他校教員)

→「汚い」という注意はよくない。自分の性器は汚いものと認識し、自分でも触れることができなくなってしまうのではないか(他校教員)。

→母親にもからだの権利があるということを本人、母親に伝えるべき。母親も見たくないということ、その気持ちに寄り添い、そのために家での自慰行為の場所など対応を一緒に考えていってはどうか。(他校教員)

→暇だと触って、感覚遊びになっているということが考えられる。興味のある活動や、バランスボールに乗ったり、プッシュトイを持たせたり、別の刺激で感覚を満たすように変えていったらどうか。学校でも、からだの権利から、自慰行為について話していってはどうか。(本校教員)

→女子、3歳ごろ頻繁に自慰行為が見られた。母親としては嫌ですごく注意をしていた。見たくないということも伝え、おもちゃ等で紛らわすようにした。(本校保護者)

○学校で学んだことを家庭でも実践していきたいが、どのように実践していけばよいのか分からない。良い方法があれば知りたいのと、学校との連携はどのように進めているのか知りたい。(本校保護者)

→家族との関係でも、近すぎて嫌だと思うときには「嫌だ」と伝えるが、本人が拒否について理解していないので近づいてきてしまう。(本校保護者)

→距離感が近い生徒がいたが、近ければ近いと伝え、近すぎると腕一本分の距離の説明など学校での取り組みや家庭との連携を通して突然触れるなどの行為は改善された。(他校教員)

→人との距離について場所や時間、本人の状態や人間関係によって変わるので、一概に距離を限定するよりも、自分の距離や相手の距離の確認する手段を身につけることを学校の取り組みとして行っている。(本校教員)

→学校との連携は連絡帳や面談等で共有することが基本ですが、書面よりも実際に話し合う方が情報の共有や支援策を考えていくうえで大事だと思うので、子供の気になることや困り感があれば気軽にお電話ください。(本校教員)

○保護者の皆さんは性教育についてどこまで求めていますか。(他校教員)

→学校でどこまで教えてもらっているのかわからないので、家庭で教えづらい。学校の授業内容を知りたい。(他校保護者)

→マンガ・アニメ・web 広告など、いろいろな情報が入りやすい時代なので、幼少期から教えてもらいたい。(本校保護者)

→禁止しすぎるより、やっていいことや条件を教えて、人生を豊かにしてほしい。(他校教員)

→自宅のリビングで自慰を始めた時には「寝室へ行っておいで」などと伝えるようにしている。(本校保護者)

○学校などで、自分の子供以外の子が、ハグしてなどと求めてきたときの対応について困っている。(本校保護者)

→ある程度の年齢が来たら、距離を作ってあげる。ハグは断り、握手をしようねなどと距離感を作ってあげる。(他校教員)

→断られる経験も大切。(他校教員)

・性の支援は、認知よりも年齢を優先にしている。(他校教員)

・自慰行為は悪いことではないので、声掛けをするときは、明るく対応している。学校ではやらないよ家でしようねなどと、場所や時間を伝える。(本校教員)

・中学部の男子で、出かけるときに手をつなぐとき「手をつないで歩く?」「一人で歩く?」など子供の気持ちを確認してから行動するようにしているが、飛び出してしまうことがあるので、手を握ってしまう。(本校保護者)



「正解」を出すのが難しい話題が多くありました。立場の異なるグループ内の方とお話することで、何かのヒントが出てきたら幸いです。